

小説部門

選考委員

嬉野秋彦、新城カズマ、森好正(コンテンツ局局长)

応募
総数

251 作品

● 選考経過

一次選考通過

● 103 作品

二次選考通過

● 16 作品

最終選考候補

● 6 作品



総評

嬉野 秋彦

最終選考に残った6作品は、意図したわけではないが、「走り(?)」、「ファンタジー」、「伝綺」がおのおの2作品ずつ。その中で、ファンタジーでも伝綺でもない、現実世界を足場にした「走り」2作品が揃って優秀賞を受賞という結果になったのは、意外ではあったが、こういうのもアリということで、個人的には歓迎したい。優秀賞2作品と残り4作品の間には、文章力やテーマの消化率、キャラの立て方など、総合的な完成度の点で明らかな差があり、特にストーリーを語る上でのベースに選んだもののオリジナリティが、この2作品は冠絶していた(何しろ階段部にドッグレースですから)。結局、このあたりも大きな決め手のひとつだったと思う。

新城 カズマ

選考委員となって改めて気づかされたのは、僕たちが候補作を選ぶのではなく、候補作が僕たちの眼力を試しているのだ、ということでした。小説家に免許はないので、物語を書き上げた時点で人はみな小説家です。問題は「プロの」小説家として続けていけるか否か。最終候補作はいずれも長所と短所が釣り交ぜて「そのまま出版してもよいほど優れた」という大賞の要件は満たしていません。とはいえ、世の小説家の幾人が(僕自身も含め)この要件をクリアできるやら。書き手にできるのは、書き続けることだけです。受賞者の方々には僕たちの「眼」の正しさを、落選した皆さんにはその過ちのほどを、書き続けることで証明してほしいと願っています。

森 好正(コンテンツ局局长)

昨今、ライトノベルというジャンルは世間的な評価を得始めたが、時代性や領域性は持ち上げる向きが多いことには、常々疑問を感じている。えんため大賞の選考では、常に普遍的な物語性を持つ作品こそを評価してきた。例年同様、今回の選考でもまず基準としたのはその部分—しっかりとドラマがあるかないかである。幸い、最終選考には相応の物語性をもった作品が揃い、そのなかから2作品を優秀賞とすることができた。表現・設定・展開等々において綻びも散見されたため、大賞ではなく一段低い評価としているものの、高いレベルであることは間違いない。今後の活躍を期待する。

優秀賞 『学校の階段』

PROFILE
プロフィール

榎末高彰
(かいま たかあき)

1977年生まれ。広島大卒。山谷のない人生を目指して公務員試験を色々受けるも何故か二次面接でことごとく落とされる。面接を受けるのはやめて「なれたらいいな」で小説を書き始める。

受賞の言葉

関係者の皆様、本当にいいんですね？ 教育団体等に怒られたら一緒に謝ってくださいよ。正直、この恨み、もといご恩は一生忘れません。ありがとうございます。ごめんなさい。人生ってどう転ぶかわかんないや。

作品紹介

天栗浜高校に入学した神庭幸宏は、4月のある日、校内の階段を縦横無尽に走り回る謎の非公認クラブ『階段部』と出会う。部長・九重ゆうこの強引な勧誘をなんとか断る幸宏だが、生徒たちに白い目を向けられながらも校内を『礼儀正しく暴走』する彼らのひたむきさに心を動かされ、入部を決意する。そして階段部の一員となった幸宏が目にしたのは『黒翼の天使』『天才ラインメーカー』など意味不明な二つ名を持つ個性的な先輩部員と、『ショット』『スタンダード』『ラリー』と厳密にルールが決まった『階段レース』の実態だった。公式な大会があるわけもなく、誰から認められるわけもない階段レースに、知力と体力と技術の全てを傾ける部員たち。床や壁を徹底的に磨き、あらゆる階段の凹みを熟知する彼らの姿にますます階段レースの奥深さにはまっていく幸宏だったが、階段部の廃部を画策する生徒会執行部の罠にかかり、同じ一年生部員井筒と九重部長を懸けてレースをすることになってしまう！ 最大最長のラリーでぶつかる幸宏と井筒。そして、階段部を待ち受ける驚愕の結末とは!? 誰も思いつかなかった斬新な設定とバカバカしくピュアな情熱に満ち溢れた、新感覚学園スポーツ青春グラフィティ!!

選評

嬉野秋彦

ややもすれば「単にキテレツな集団」という描写だけになってしまいがちな階段部なるものが、校内に賛同者がいないというマイノリティゆえの苦悩を絡めてしっかり描かれている点を評価したい。「一般の生徒たちに後ろ指を指されながらも、ベクトルの同じ仲間同士で好きなことをやる」——ぼくがオタクっぽい学生時代をすごしてきたせいか、このあたりにヘンに共感してしまった。ただ、4人姉妹の設定だけ不自然にギャルゲーっぽすぎ。あれはいらん。

新城カズマ

偶然か必然か、最終候補に「競走」モチーフが2作。こちらは正統派のサブジャンル「おかしな学園もの」で、クラブの設定と部員キャラの配置が心地よいです。作者の意図が「青春の清々しい無駄足」にあるぶん、学園のコミカルな立地条件と相殺して焦点がぶれた感があるも、容易に手直し可能。個人的には「もっと学園設定をぶっとんだものにして、ライバル校もつくって、いずれは全国大会出場を!」とリクエストしたいところです。

森好正

快作である。『階段部』に集う高校生たちの青春群像、という主題はまぎれのないものであり、キャラクターひとりひとりの心情も、過不足なく描けている。そのあたりのよさは、過去の大賞受賞作に比肩するものだ。が、にもかかわらず、読んでいて「場違いな」と思われる萌えキャラが登場するのはいかなる理由によるものか。もしも「地味」とか「萌えがない」などという評価を怖れてのことであれば、そのような心配は不要であったのに。

優秀賞 『走って帰ろう!』

PROFILE
プロフィール

加藤 聡
(かとう さとし)

1968年東京生まれ。東京在住。劇団おくり狼の作・演出を担当していたが、あえなく劇団は座礁、沈没。以後、小説の投稿を開始。現在に至る。

受賞の言葉

受賞の報せを聞いて以来、驚きと喜びが胸一杯で張り裂けそうです。あまりの出来事に眠れぬ日々を過ごしています。授賞式まで生きていられるか、とても不安です。

作品紹介

「馬鹿野郎。人生はいつだって突然の連続だ」。告白した女の子にあっさりフラれ帰宅した平凡な高校生、速見卓也を待っていたのは、夜逃げした両親の残した12億5千万円の借金と、黒いスーツにグラサンのヤクザだった! 莫大な借金を返すため、卓也はサラブレッドのオーナーを夢見るヤクザ、原田のもとで、非合法自転車レースの選手となる。毎週日曜、有明10号埠頭で催される通称『ドッグレース』。走るのは悲惨な過去と莫大な借金を背負ったどん底の人々。日々のしみつたれた生活費と借金の返済のために周回レースに身体を張るレーサーたち。『倒産』『丘サーファー』『ブロイラー』『赤い彗星』奇妙なレースネームの彼らと激戦をくり返すうちに、卓也は不思議な仲間意識を持つようになっていく。そんな生活にも慣れたある日、ドッグレースに警察の手入れが入りレーサー達は散り散りになってしまう。一カ月後、優勝者のみ全借金がチャラになる最後のドッグレースの開催を原田から告げられた卓也は、密かに全てを賭けた大勝負に挑む!! 非合法の自転車レースを舞台に少年の成長をドライな感性で描いた渾身の青春サバイバルヒューマンコメディ!!

選評

嬉野秋彦

ムツかしい専門用語がぼんぼん出てくる点が引かかるものの、個人的には好きな作品。それぞれに奇妙なアダ名を持つレーサーたちと、何よりヤクザのキャラがいい。このへんのキャラの作り方、描き方はとてもうまいと思う。ただ、それに対して、主人公が少し淡々としすぎていないか? ごく普通の学生がいきなり多額の借金を背負わされ、非日常的な生活の中で少しずつ変化していったのであれば、その過程をきちんと描くべきだった。個人的には委員長イチオシ。

新城カズマ

まずは、ライトノベルの新人賞にこんな物語(褒め言葉です)をぶつけてきた胆力が、なにより喜ばしい。文章力は凡百のプロ作家に優り、レース場面の描写は見事の一言。サブキャラ・原田も良い。惜しむらくは後半の構成に難ありで、しかしそれさえ「自分が担当編集だったら、ここはこう直させるのに!」と評者に感情移入させる始末。大賞を逸して加筆修正の機会を得たことが、むしろ作品にとっては幸運だったかとさえ思われます。

森好正

これもまた、読後感のよい快作と言ってよい。高校生の、自転車レースを通しての成長物語、というやはり明確な主題一本槍でストーリーを展開させていく手腕は見事。文章もこなれており、読みやすさという点でも高いレベルにある。ただ、うまいからゆえなのか、もう少し説明すべき事柄や描写を書き飛ばしてしまっているのはマイナス材料。とくに、主人公とヒロインの交流は、もう少し描いて欲しかった。

佳作 『ワンダフル・ワンダリング・サーガ』

～世界を救うのはパンダと女の子とサラリーマンと女子大生～

PROFILE
プロフィール

矢治 哲典
(やじ てつよし)

1977年大分県生まれ。仕事やらなんやらで各地を転々とし、今は「おいしい、お前んとこだけ戦後かよ?」というバラック小屋で小説を書き続けて受賞に至る。

受賞の言葉

私は才能のある人間ではありません。28の作品を書き続け、ようやく夢を掴む事が出来ました。才能に頼らずとも夢を掴める事が証明できて、とても嬉しいです。今の嬉しさを胸に、頑張りたいと思います。

作品紹介

「Why! なぜにッ?」高卒二年目、超多忙な食品会社営業マンの正晴は仕事帰りに「助けて」という声を聞いたと思った瞬間なぜかジャングルの中に! 声の主、パンダに乗った不思議少女ピヨリは出会いがしらにこう告げる。「あなたは勇者なのです」と。「自分は忙しいんだ!」と猛烈に抗議する正晴だが、その世界『マナフ』を崩壊させんとする存在、バクスゥを倒さない限り元の世界へ戻れないと聞き、経費落ちしていない領収書と明日の出張のため商品サンプルの入ったアタッシュケース兼伝説の剣を手に二人と一頭で冒険の旅に出ることに……。途中、同じくピヨリに召喚された正晴の幼馴染・夢見を仲間に加えた一行は、モンスターを倒しつつバクスゥがいるという世界の中心へと向かう。夢見との思い出話やお菓子にはしゃぐピヨリの無邪気な姿に、忙しさに忘れかけていた気持ちを取り戻していく正晴。そしてついバクスゥと対峙した正晴にピヨリが告げた「マナフの真実」とは!? 若いサラリーマン必読!? 失くしてしまった大切なものを取り戻せる、ちょっぴりダサくて、心温まるユーモラス・ファンタジー登場!

選評

嬉野 秋彦

最初ももとの世界に戻ることにばかり考えていた主人公が、異世界の秘密を知り、最終的には自分なりの強固な目的意識をもって最後の戦いにおもむくまでの、その感情の移り変わりは一応書けているのだが、それが少し性急すぎて、終盤の説教臭さが鼻につく。ただ、この作者はコンスタントに作品を完成させていけるのではないかという可能性は感じた。そういう部分も加味して、個人的には、作品にではなく作者に対して賞をあげたつもりでいる。

新城カズマ

あまりにも古典的な舞台設定や敵キャラのせいで損をしつつも、主人公たちの造形と小気味良い会話の巧みで、最終的に長所が短所をねじふせて合わせ技一本……という印象です。とくにお菓子和料理の伏線の使い方は秀逸。作品自体の地力は他の2作に劣るも、「この作者の次回作を読みたい」と思わせる何かがある。「異世界ファンタジー」というキミック無しの、現代日本を舞台にしたガチンコ勝負な物語のところが案外むいているかも。

森 好正

明確な主題を軸にストーリーを動かしているし、登場人物の心情描写も十分に行っている。そのあたりはけて優秀賞にひけを取っていない。ただし、作者にとってよほど語りたかった主題なのか、それを追いかけることだけで話が終始してしまった感がある。物語の骨組みだけを讀まれたような、と言い換えようか。キャラを増やし、主題を別の角度からも描写する、所謂物語の"横軸"を入れ込むだけで、話の奥行きは段違いに深まったはずだ。

東放学園特別賞 『魔法日和の昼下がり』

PROFILE
プロフィール

鯛津 祐太
(たいづ ゆうた)

1982年生まれ。埼玉在住。高校卒業後日本電子専門学校アミューズメント研究科を経て、東放学園専門学校デジタル文芸科入学。H16年デジタル文芸科卒業後バイトをしながら執筆を続ける。

受賞の言葉

突然のことに、自分でも驚くほど動揺しています。親や友人たちに報告する中でようやく実感がわいてきました。作品のジャンルや方向性のことで悩んでいた時期なので、その時期に書いた作品が賞をもらったということが前向きな気持ちにさせてくれました。

選評

笠原 次郎

えんため大賞事務局長

さえない高校生の家に住み着く壺から現れた美人のお姉様魔神が引き起こすおバカコメディ。新鮮味はないが、最後まで「おバカ」なテンションを落とさずに書き切れている点は評価できる。ただし、その分勢いに頼りすぎ、プロットをもっときちんと組み立てる冷静さもほしい。

東放学園特別賞 『アカのキセキ』

PROFILE
プロフィール

天乃 楓
(あまの かえで)

1979年北海道生まれ。東京在住。高校生の時から小説を書くことに興味を持ち、東洋大学短期大学日本文学科を卒業後、東放学園専門学校デジタル文芸科に入学。H17年デジタル文芸科卒業。現在に至る。

受賞の言葉

ようやく念願の職業に進むための、最初の鍵を手にすることができました。本当に嬉しいです。作品に係わってくださった皆様、本当にありがとうございました。これからも日々精進の気持ちを忘れずに頑張ります。

選評

笠原 次郎

えんため大賞事務局長

主人公レイヨウと幼い女の子の姿に「封印」されている魔獣リドの心の交流を描いたファンタジー。淡々とした中にもきちんと二人の心の変化をエピソードをとおして積み上げている。奇をてらったところはないが、作者の登場人物に対する誠実で暖かい視点には好感を持つ。

コミック部門

選考委員

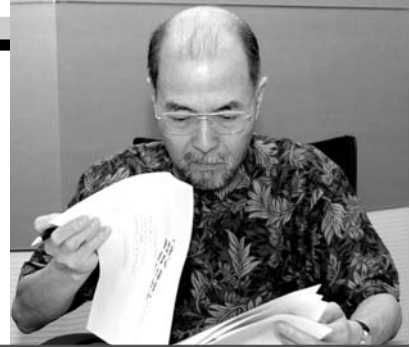
呉 智英、桜 玉吉、しりあがり寿
奥村勝彦(月刊コミックビーム編集長)

応募
総数

324 作品

● 選考経過

コミック部門の最終選考候補は「月刊コミックビーム」のマンガ大賞入賞者がノミネートされます。



最終選考候補

7 作品

総評

呉 智英

ここ2~3年の間では、一番レベルが高かったのではないかと。特に「母さんロックで泣く。」と「奥さんコメ屋です」の2作品は高い水準にある。その他の作品に関しても力作が多いので、読んでいて変に疲れるといったことが一切なかった。それだけポジティブな気持ちで読めたという意味で、収穫でした。作品の傾向もヘンな偏り方がなかったので、この賞が歴史を重ねてきて、応募する側も、それなりにこなれてきたような印象があります。来年以降も、この調子なら期待していてもいいかもしれません。

桜 玉吉

久しぶりに選考委員に復帰したのですが(第1回選考委員)、当時よりも全体的にレベルが上がっていて、バラエティが豊富になってるなあ。選考していて楽しかったし、選考会でも意見の対立がほとんどなく、受賞作がスムーズに決定しちゃいました。こんなにラクでいいんでしょうか? 印象に残ったのは、やはり佳作に残った3作品ですね。一読者の観点からとしても、この3作品は大好きです。ぜひ載せようコミックビーム!

しりあがり寿

呉さんと同じ意見で、ここ2~3年審査した中だと一番面白かった。今回の総評としては、佳作の3作品と奨励賞の2作品との差は、描きたいモノをとらえる精度の差なんじゃないかという気がしました。それが高いか低いかが、今回の賞の明暗を分けちゃいましたね。特に「母さんロックで泣く。」はそういう意味ではレベルが非常に高いです。

奥村 勝彦

今回の選考は、満場一致で受賞作が決まりました。こんなのは初めてだなあ。すんげえスッキリ決まりました。みんなこういう風に物事が決まれば戦争なんて起きないのに。あ、関係ないか。いずれにせよ、ここからがスタートなんで、頑張って、掲載→連載→単行本発売→プロとして生活成立という、コースを駆け上がっていきましょう。ま、あんまりあせりすぎてもしゃあないんだけどね。

佳作 『母さんロックで泣く。』

PROFILE 熊鹿るり
プロフィール (くましかるり)

阿佐ヶ谷美術専門学校卒業後、デザイナーとして働く。結婚後主人の仕事でハワイへ。現在LA在住。

受賞の言葉

今回は、賞をいただき本当にありがとうございます。うれしさに髪の毛が逆立ちました。もっともっと深く描けるようにがんばりたいです。『母さん』、がんばるよ!

作品介绍

どこにでもいるフツートの主婦ウタエさんは、婦人会の慰安旅行で瀕死の事故に遭遇。彼女は政府機関にサイボーグとして改造され、一見元通りになる。だが、本当の彼女は政府機関のスナイパー。裏のダーティーな仕事彼女の元に次々と……。



選評

呉智英

全体的に面白い。ジャンルとしてはSFになるんでしょうが、キャラクターそれぞれに味があって良い。ただ、この作品は32ページを2つに分けた二部構成になっているんだけど、あまり効果的だとは思えない。逆に冗長な気さえするので、もう少しコンパクトにすべきだったのでは？

桜玉吉

今回の応募作では一番高評価です。あらゆる面で水準が高い。基本的にはバカバカしいノリで描いてるのに、説得力があるのがスゴイ。ところでなんで、母さんのクチビルはオバQみたいなんだろう？

しりあがり寿

大好きです。続きが読みたくなる。表現しようとしているモノのレベルが高いです。現在の年齢とかは関係なく、もっと上手くなりそうな気がします。特にアドバイスするとすれば、状況を絵で伝える技術を、もう少し上昇させるといいかも。味がなくなんない程度にですけど。

奥村勝彦

面白い。なんか新人離れしたような老練さを感じる。問題があるとする、LA(ロスアンゼルス)在住ってトコですかね。遠いぞロスアンゼルス。できれば御主人の再度の転勤で日本に帰ってきて欲しい。あとタイトルで「ロックで泣く」とあるが、意味がさっぱりわからなかった。謎だ。

佳作 『ばかねこ』

PROFILE 松岡 哲
プロフィール (まつおか さとる)

現在静岡県在住、地元のAMラジオ局にてアルバイト中。

受賞の言葉

女性にウケるマンガを、という方針で描いた作品です。が、こないだまで働いていた職場の女性陣には「もっと売れそうな描きなよ」と言われました。ぶん殴ってやりました。

作品介绍

主人公のOLが飼ってるネコはバカで、いつもワケのわからないことを考えて心配している。元々、そのネコは昔の彼氏が拾ってきたもので、そのネコを見るたびに、複雑な心境になる主人公であった。



選評

呉 智 英

最初は女性が描いていると思こんでいて、作者が男性だと知り驚いた。絵は現代的で個性もあるのだけれども、全体的に弱い印象がある。もっとアクを強める方向に進んだ方がいいのかもしれない。

桜 玉 吉

非常に好印象。ラストでグッときました。絵があまりにも記号的すぎるのが気になりますけど、ネコのキャラクターがそれを救ってるなあ。ネコのバカなセリフが楽しくて素晴らしいです。いいんじゃないでしょうか。

しりあがり寿

ラストがいいなあ。そんなに技術があるとは思えないんだけど、伝えたいモノが、本当に気持ちのいいモノなんだろうなあ。だから、読後感がいいんですよ。コレは重要なポイントです。

奥村勝彦

そんなハデな作風じゃないけども、ピリっとした感じがするなあ。もし、本格的に漫画に取り組んでくれたら、どういう方向に伸びてってくれるのか? ……なんて考えてしまう。ホントに楽しみですなあ。

佳作 『奥さんコメ屋です』

PROFILE 奈良佳子
プロフィール (なら よしこ)

埼玉県出身、在住。1月29日生まれ。漫画の修行は完全に独学です。

受賞の言葉

有難いような、申し訳ないような気持ちです。これを何倍にもして返せるような、読む人に楽しんでもらえるような漫画をたくさん描ける人になりたいです。ありがとうございました。

作品介绍

ホヤホヤの新婚夫婦。新婦はナゼかゴハンを炊いてソワソワする。実は先日、配達しに来た米屋の店員にトキメイってしまったのでした。それまでの日常生活が微妙に変化していく、もちろんそれは米屋が原因なんですが……。



選評

呉 智 英

好印象。絵も新鮮だし、話も面白い。即戦力として期待していいのではないかな。ただ、全ページにモノローグが入るのは、くどいんじゃないかな。

桜 玉 吉

面白い。時代背景が現代なのか、昭和30年代なのか良くわからないんだけど、これは作者の趣味なんだろうなあ。その辺も含めて全体的に大好きです。

しりあがり寿

こういうテーマをドラマティックに盛り上げすぎずに、最後まで読ませるのはイイ。実力がある証拠です。ちょっとツメ込みすぎな感じはしますが、妄想での浮気相手である米屋さんが、全部同じ絵しか出てこないとは素敵だなあ。

奥村勝彦

上手い。トーンをベタッと貼ったり、細かいところで修正点はあるけれども、大した問題ではない。ちょっとコツを掴んだら連載してもいいくらいの段階なんではなかろうか。非常に期待しております。

奨励賞 『発明王』

PROFILE 佐々木タダシ
プロフィール (ささき ただし)

北海道生まれ。現在東京在住。現在26歳フリーターであります。

受賞の言葉

これを励みに今後もさらに、頑張ったり、頑張らなかつたりしたいとおもいます。

作品紹介

町で煙たがられる発明少年。彼はガールフレンドを呼び自作のロボットを試運転開始!! 彼が巨大ロボットを作った目的は町の破壊...だったが、制作途中にウサが晴れてしまい、目的がなくなってしまうのだ。……どうする?



佐々木 タダシ



選評

呉 智 英

決して悪くはないんだけど、今イチ訴求力に欠けるなあ。コマの運びが良くないところはあるけど、絵は悪くない。惜しいね。

桜 玉 吉

うーん。どっかで見たことあるモノの寄せ集めっぽいなあ。町ぶつつぶしたる!ってのが発想のスタートなんだろうけど。もう少し可能性を広げてほしかったなあ。

しりあがり寿

評価が難しい。なぜならテーマを最後まで描ききれてないように思えるからです。自分の視点が弱いせいか? せつかく町で大暴れしてるのにねえ。

奥村勝彦

もうちょっと描く前に題材を煮詰めて欲しかった。せつかく物凄い労力で描いているのに、もったいない。なんか肩すかしされたような気がするんだな。

奨励賞 『うさぎたばこ 兔子煙草』

PROFILE 財賀 茜
プロフィール (さいが あかね)

東京在住。

受賞の言葉

嬉しいですよこのような場所に……このようなコメントを書くことに憧れを抱いておりました。これからいいことがあるよう、元気よく頑張っ参りたいと思います。ありがとうございました。

作品紹介

一服吸うと、兎の耳と尻尾が生えてきてパニーガールに変身する兔子煙草。兎好きな女・ミオはボーイフレンドの田中にもらった兔子煙草を大量に吸い、ついに本物の兎に……。



選評

呉 智 英

全体的にはまずまず。ですが、結末を含めてストーリーが甘い。もう一段のレベルアップが必要だと思えます。

桜 玉 吉

変身前の顔が、元々ウサギ顔。ウサギが本当に好きなんだろうな。だから、キャラクターに愛情を感じる。「ウサギが好き!」たぶんそれが一番描きたかったテーマだと思う。

しりあがり寿

絵とかコマとか、部分部分で面白いトコが結構あるんですが、トータルでの面白さが今イチ浮かび上がって来ない。もう一息です。

奥村勝彦

クセの強い絵柄なんだけど、力はある人なんで、エネルギーがきっちりエンターテイメントの方向に向かっているければ、まだまだ伸びるんじゃないかな。



イラスト部門

選考委員

天広直人、成瀬ちさと
森 好正(コンテンツ局局长)応募
総数

923 作品

● 選考経過

イラスト部門の最終選考候補は
「マジキュー」の
イラスト大賞入賞者が
ノミネートされます。

最終選考候補

21 作品



総評

天広直人

今回は、前回までよりも、キャラクター単体としての完成度に重点をおいて選考を行いました。絵として見るべきものは受賞作以外にもあったと思いますが、現在のキャラクターファンに対してのアピール度や、オリジナル度という基準で考えると、ほぼこのような結果になるのではないかと思います。とはいえ、一枚のキャラクター絵の顔がかわいい、雰囲気がいいというだけでは、プロとして幅広い支持を得るのは難しいでしょう。自分の絵の世界観を広げる努力と、それをどうやって見る人に伝えるか、方法をよく考えて、今後につなげて欲しいと思います。

成瀬ちさと

どの作品も一定レベル以上で、うまいね〜という部類ではあるのですが、バツと目を惹く魅力を持った作品は少数でした。CG作品がやはり大半を占めるようになっていますが、線は魅力的でもCGに遊ばれてしまっているような塗りの作品が多かったのが残念。もっと数をこなしていろいろ試してみてください。また、応募点数の少ない方、自分で可能性の幅を狭めてしまっている感じがします。折角の機会ですのでいろんな面を見せて、もっとアピールしてみてもいいと思います。

森 好正(コンテンツ局局长)

マジキューという雑誌を舞台とする賞を選考するにあたり留意しているのは、「女の子」をどれだけ魅力的に描いているのか、である。逆に言えば、ただ漫然と「女の子が登場している絵」を描いているだけではダメだ、ということだ。顔立ちが綺麗な娘を描いているだけではダメ、ということだ。現実の女の子と同じで、髪型や服装、アクセサリの付け方、そして立ち振る舞いまでのすべてが相まって、初めて魅力的な女の子が出現するのである。その基準に立った場合、残念ながら大賞と呼べる水準の作品は発見できなかったが、優秀賞・佳作・奨励賞であれば、という作品には出会うことができた。今後の精進を期待したい。

優秀賞 『うら』他

PROFILE 山崎 透
プロフィール (やまさき とおる)

8月3日生まれ。長崎県出身、福岡市在住。

受賞の言葉

日陰でひっそりと絵を描いていて、「物は試し」と応募してみたのですが、まさか賞をもらえるとは思いませんでした。正直おっかなびっくりです。



選評

天広直人

まず色が心地良いので、第一印象でとても得をしています。デザインも、独自のセンスが感じられます。テーマをアレンジした6枚のキャラクターイラストで、プレゼンテーション効果が高かったのも、要求の理解度を感じさせて、好評価につながった要因だと思います。まとまっているので、幅広くお仕事の場を想定しやすいのですが、個人的には、こじんまりとしすぎているところに欲求不満を感じます。特にキャラクターのタイプの表現に幅広さが欲しい。

成瀬ちさと

画力、色彩共に商業に耐え得る安定感を感じます。キャラクターの設定も、「おっ」と思わせるものがあって面白いですね。ただ、ぱっと見はどのキャラも可愛くはあるのですが、キャラクターコンテンツになった時にキャラの描き分けという点で不安を感じます。賞に応募するとなると、自分の好きな顔で描いてしまうのもわからないのですが……。

森 好正

応募原稿のいずれもが高い水準であり、仕上がりにブレがないのをまず評価したい。衣装デザインやポージング、指先など末端の描写までいずれも注意が行き届いており、その意味ではすでにしてプロレベルの仕事である。ただ、そこまでやれているのに唯一かつ最大の弱点となっているのが表情の乏しさである。もしかすると意図的なものなのかもしれないが、魅力を損ねているとしか思えなかった。

佳作『花』他

PROFILE K E I
プロフィール (けい)

1981年4月1日北海道生まれ、東京都在住。フリーで挿絵やイラストを描いています。ブラックコーヒーとビターチョコと少しの煙を糧として生きてます。

受賞の言葉

今回は、このような賞をいただき、大変嬉しく思っております。ありがとうございます。これからも日々精進するべく描き続けたいと思います。

選評

天広直人

雰囲気は十分です。ただ、モノクロームな世界のみだと、イラストとしては活動の場が限定されることは間違いないので、もっといろいろな場面を表現してみてください。キャラクターのみで勝負ができるかどうか、という視点もありますので、雰囲気に頼らないアプローチがあるとさらに良い評価になったと思います。

成瀬ちさと

色彩感覚、世界観という点では応募作品中ずば抜けていました。実際小説などの挿絵としては十分な力を持たれていると思います。……が、美少女イラストという点では、キャラの魅力が追いついていないことから佳作という結果に。このまま我が道を進んでいただいても十分な気もしますが、今あるラフ感を残しつつ、キャラクターとしての魅力を引き上げていけると良いですね。

森好正

文庫の挿絵的な構成の作品、という印象。色遣いや背景の描き方も含めて魅力的ではあるが、逆に描かれている女の子にキャラクター単体としての魅力がもっと欲しい。髪型・服装……細かい部分でもっともっと手を入れる余地があったはず。仕事の幅を広げるためにも、女の子を単体で描くという修練を今以上に積んで欲しい。そうすれば、色のセンスや構図のうまさという武器が、さらに生きるであろうから。



奨励賞『Sweet』

PROFILE 和 鏡
プロフィール (わさび)

東京在住。現在デザイン系専門学校在学中。

受賞の言葉

未熟ながら今回の賞を励みにこれからも絵を描き続けられるよう頑張ります。

選評

天広直人

キャラクター、画面の構成など破綻なくまとまっています。ですが、色がよどんでしまっているのととても損をしています。気持ちの良い色と、世界観のバリエーションが提示できれば評価はグッと上がるでしょう。

成瀬ちさと

うまくまとまっていると思いますが、逆にまとまりすぎてしまって絵の勢いを殺してしまっている感も。背景とキャラクターの関係が、「ああそうか」と思えない点も残念です。色の濁りが「味」ではなく、「損」になっている部分もありますので、そのあたりメリハリのある画面を心がけてみては。

森好正

技術的にはまだまだ向上の余地がある作品。しかし女の子を魅力的に描く、というところに意識を向けようとしている姿勢を評価し、奨励賞とした。いまはまだとにかく枚数を描いて、自分ならではの武器を見つけて欲しい。



えんため大賞受賞作リスト

第1回ファミ通エンタテインメント大賞 1999年

大賞 該当作なし
 小説部門 最優秀賞 該当作なし
 最優秀賞 「ボディガード」荒井干明
 佳作 「夜空に、満天の星」桜庭一樹
 佳作 「かがみのうた」神野オキナ
 コミック部門 最優秀賞 該当作なし
 入賞 「底抜けサーカス団」鈴木マサカズ
 入賞 「サムライ惑星」須田信太郎
 佳作 「犬。」小澤けいこ

イラスト部門 最優秀賞 該当作なし
 入賞 「無題」アサダラサム
 入賞 「無題」山村真紀
 奨励賞 「無題」藤田順子
 ドラマ企画書部門 最優秀賞 該当作なし
 入賞 「風水娘 睡蓮」大田原智子
 奨励賞 「WILD DIAMOND」深見 真

東放学園特別賞(小説) 「きみの願い、ぼくの望み」青山カナコ

第2回ファミ通エンタテインメント大賞 2000年

大賞 該当作なし
 小説部門 最優秀賞 該当作なし
 入賞 「深緑の魔女」伊東孝泰
 佳作 「パラレル・パラダイム・パラダイス」飛田 甲
 佳作 「GUNNER」てつまよしと
 コミック部門 最優秀賞 該当作なし
 佳作 「大きな出会いと小さな革命」山根 大
 佳作 「ホーロの光」へちまタツシ
 ユニーク賞 「音楽伝説ABC物語」ヨシダプロ

イラスト部門 最優秀賞 「宵闇通り7番街」英里
 入賞 「無題」かじかかな
 入賞 「無題」TAROSUKE
 ドラマ企画書部門 最優秀賞 「プラントハンター-蘭」堀川しんら
 佳作 「人形神話」堀川しんら
 佳作 「27人の悪魔使い」山田浩平

東放学園特別賞(小説) 「アルシア・ハード〜翼の後継者〜」鈴羽らふみ

第3回ファミ通エンタテインメント大賞 2001年

大賞 該当作なし
 小説部門 最優秀賞 「赤城山卓球場に歌声は響く」野村美月
 佳作 「三月月の魔法」上島拓海
 コミック部門 最優秀賞 該当作なし
 優 秀 賞 「雪のマフ」千田悟史
 入賞 「白い本」保永知恵
 佳作 「スペーススラッメン」ヒメノ司ロウ
 佳作 「白箱2001」よつやひかる
 奨励賞 「SWORD MAKER」十尺まほ
 奨励賞 「TEXAS9」中嶋教介
 奨励賞 「酒と煙草と煙」山地由花

イラスト部門 最優秀賞 該当作なし
 優 秀 賞 「いつも一緒」苗吹ひな
 優 秀 賞 「読書」NAKATO
 佳作 「ベンチャーズ」八多友真
 佳作 「ミツコ医院」安藤高行
 選考委員特別賞 「兎(機)神と戦士」うっちゃん
(ワグワグ賞)

ドラマ企画書部門 最優秀賞 該当作なし
 優 秀 賞 「刀京始末綱」中川シヒロ
 入賞 「邪宗門」海之帝國社
 選考委員特別賞 「ドキドキ魔法船リリンシタイトエンプレス」吉澤絵美
 奨励賞 「渋谷系銀ちゃん」西田賢二
 奨励賞 「白夜」中里友香
 東放学園特別賞 該当作なし

第4回エンターブレインえんため大賞 2002年

小説部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 「この時代に生きることを」坂本和也
 佳作 「カレティナ・ブラウスキュル」朝倉 衛
 佳作 「白話草の香り」清藤コタツ
 コミック部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 該当作なし
 佳作 「oto chan」さかいわたる
 佳作 「二十六人の男と一人の少女」田邊 剛
 佳作 「ファンタジー・ファン」マナベウミ
 佳作 「アコリンピック」みずたまさやす

イラスト部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 「シャッターチャンス」G3
 佳作 「Jump-off」御崎智敬
 佳作 「大切な風景」浅井あきひろ
 選考委員特別賞 「白夜を渡る龍の船団」鳥取砂丘
 東放学園特別賞(小説) 「永久駆動パペットショウ」豊倉真幸

第5回エンターブレインえんため大賞 2003年

小説部門 大賞 「吉永さん家のガーゴイル」田口仙年堂
 優 秀 賞 該当作なし
 佳作 「朱き女神の社」星隈真野
 佳作 「精霊紀界ディメンティア」荒川要助
 編集部特別賞 「閉鎖師ユウと黄昏恋歌」扇 智史
 コミック部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 該当作なし
 佳作 「欲望という名のファミレス」小森谷寛
 佳作 「さいこのふたり」すぎうらあせら

イラスト部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 「姉妹姫」柊 暁生
 優 秀 賞 「森のシャーベット」野中 友
 佳作 「たたいま…」AYARA
 佳作 「スクール水着」ゆうすけ
 選考委員特別賞 「砂漠の約束」まんじゆ
 選考委員特別賞 「プリンセス・スイーツ」桜木 晶
 東放学園特別賞(小説) 「新説 無月物語 The Dark Tales」靴沢ゆうき
 「悪夢の配分」荒城勇哉

第6回エンターブレインえんため大賞 2004年

小説部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 「渚のロフスター少女」あきさか あさひ
 優 秀 賞 「緑竜亭繁盛記」橋 柑子
 佳作 「超高速機動粒子炉船 春一番」出泉乱童
 佳作 「狂乱家族日記」日日日
 コミック部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 該当作なし
 佳作 「Sweet Night 18」斎藤まり
 佳作 「予知夢」米山 毅
 奨励賞 「Xploitation」岩瀬玲子
 奨励賞 「うつつの幻画堂」原 祐美
 奨励賞 「乙女の祈り」松本 藍

イラスト部門 大賞 該当作なし
 優 秀 賞 「明日の日記」保留トビユキ
 優 秀 賞 「自由の花嫁」若 風羽
 佳作 「メリクリスマス」重戦車工房
 佳作 「ブレイクタイム」松本唯介
 奨励賞 「林檎姫」片瀬悠司
 奨励賞 「お昼休み」羽坂莉桜
 東放学園特別賞(小説) 「生ける少女のパヴァーヌ」佐藤了

えんため大賞受賞作リスト

第7回エンターブレインえんため大賞 2005年

小説部門

大賞 該当なし
 優秀賞 「学校の階段」 榎末高彰
 優秀賞 「走って帰ろう!」 加藤 聡
 佳作 「ワンダフル・ワンダリング・サーガ」 矢治哲典
 ~世界を救うのは/ソングと女の子とサラリーマンと女子大生~

イラスト部門

大賞 該当なし
 優秀賞 「ララ」 山崎 透
 佳作 「花」 KEI
 奨励賞 「Sweet」 和 籍
 東放学園特別賞 (小説)
 「魔法日和の屋下がり」 鶴津祐太
 「アカのキセキ」 天乃 楓

コミック部門

大賞 該当なし
 優秀賞 該当なし
 佳作 「母さんロックで泣く。」 熊鹿るり
 佳作 「ばかねこ」 松岡 哲
 佳作 「奥さんコメ屋です」 奈良佳子
 奨励賞 「発明王」 佐々木タダシ
 奨励賞 「兔子煙草」 財賀 茜

受賞作刊行一覧



■ファミ通文庫
「アンダートラップ」
 飛井千明 (2004年12月発売)
 第1回小説部門優秀賞受賞作
 「ホライズ」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「AD2015 隔都都市」
 桜庭一樹 (2004年12月発売)
 第1回小説部門佳作受賞作
 「夜空に、満天の星」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「蘭色の魔天使」
 神野オキナ (2004年12月発売)
 第1回小説部門佳作受賞作
 「かかみのうた」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「BIOME 深緑の魔女」
 伊東京一 (2001年5月発売)
 第5回小説部門入賞作
 「緑の魔女」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「GUNNER」
 てつまよしよ (2001年7月発売)
 第2回小説部門佳作受賞作
 「GUNNER」を改題。



■ファミ通文庫
「ハイブリッドユニバース」
 飛田 甲 (2001年8月発売)
 第2回東放学園特別賞受賞作
 「パラレル・パラダイス」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「アルシハード 賢を奪くものたち」
 鈴羽らぶみ (2001年6月発売)
 第2回東放学園特別賞受賞作
 「アルシハード〜賢の最後者〜」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「プラントハンター 蘭」
 堀川しんろ (2001年5月発売)
 第2回ファミ通文庫特別賞受賞作
 「プラントハンター」を受賞者自ら小説化。



■ファミ通文庫
「赤城山卓球場に歌声は響く」
 野村美月 (2002年1月発売)
 第3回小説部門優秀賞受賞作
 「赤城山卓球場に歌声は響く」を改題。



■ファミ通文庫
「三月の魔法」
 上島拓海 (2002年1月発売)
 第3回小説部門佳作受賞作
 「三月の魔法」を改題。



■ファミ通文庫
「刀京始末編 ~セツシノクター」
 藤本和也 (2002年2月発売)
 第3回ファミ通文庫特別賞受賞作
 「刀京始末編」を受賞者自ら小説化。



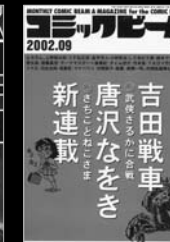
■月刊コミックビーム
「千田のマップ」
 千田信史 (2001年9月号)
 第3回コミック部門優秀賞受賞作。



■ファミ通文庫
「リアルライフ」
 坂本和也 (2003年1月発売)
 第4回小説部門優秀賞受賞作
 「この時代に生きることを」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「永久駆動パペットショー」
 星野真由 (2004年1月発売)
 第4回東放学園特別賞受賞作
 「永久駆動パペットショー」を改題。



■月刊コミックビーム
「ファンタジー・ファン」
 マナベウミ (2002年9月号)
 第4回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックビーム
「oto chan」
 さかいわたる (2002年10月号)
 第4回コミック部門優秀賞受賞作。



■月刊コミックビーム
「二十六年の男と一人の少女」
 田邊 剛 (2002年10月号)
 第4回コミック部門佳作受賞作。



■月刊コミックビーム
「アゴリンピック」
 夢野なまきやす (2002年10月号)
 第4回コミック部門佳作受賞作。



■ファミ通文庫
「吉永さん家のガーゴイル」
 田口仙太郎 (2004年1月発売)
 第5回小説部門大賞受賞作
 「吉永さん家のガーゴイル」を改題。



■ファミ通文庫
「朗読師ユウと黄昏恋歌」
 藤 穂史 (2004年1月発売)
 第5回小説部門優秀賞受賞作
 「朗読師ユウと黄昏恋歌」を改題。



■ファミ通文庫
「騎王神楽深川家物語」
 星野真由 (2004年1月発売)
 第5回小説部門佳作受賞作
 「奈き女神の社」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「BAD BOY イバッドガール」
 卯月勝太 (2005年1月発売)
 第5回東放学園特別賞受賞作
 「悪夢の脱走」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「着のロプスター少女」
 あきせあさひ (2005年1月発売)
 第6回小説部門優秀賞受賞作
 「着のロプスター少女」を改題。



■ファミ通文庫
「カエルと霧下と森の魔女」
 橋 裕子 (2005年1月発売)
 第6回小説部門優秀賞受賞作
 「緑電亭魔術記」を改題・改題。



■ファミ通文庫
「狂乱家族日記」
 夢野なまきやす (2005年6月発売)
 第6回小説部門佳作受賞作
 「狂乱家族日記」を改題。